

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えし、また医療の進歩に寄与するべく絶えず検査領域の拡大に努めております。此の度、下記項目の検査受託を開始することになりましたので、取り急ぎご案内致します。

宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

[9950]ADAMTS13活性

[9951]ADAMTS13インヒビター定性

[9952]ADAMTS13インヒビター定量

インヒビター定性ご依頼の際は、ADAMTS13活性も併せてご依頼下さい。

受託開始日

平成18年10月2日(月)

ADAMTS13 活性測定

ADAMTS13(a disintegrin-like and metalloproteinase with thrombospondin type1 motifs 13) は、止血因子であるvon Willebrand因子(VWF)を切断する垂鉛型メタロプロテアーゼ(VWF-cleaving protease, VWF-CP)で、VWFのマルチマーサイズを減じることで病的な血小板凝集・血栓形成を防止する働きをします。血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)は細小動脈に血小板血栓が閉塞することで発症する全身性重篤疾患で、TTPの原因として、このADAMTS13活性が低下または著減することが知られています。TTPは遺伝子異常による先天性TTPとIgG型自己抗体(インヒビター)による後天性TTPとがあり、治療方法の選択において両者を鑑別することが重要となります。

また、TTP患者では血栓形成を亢進させるため、血小板輸血は禁忌とされます。

従来、ADAMTS13の測定はSDS-ポリアクリルアミドゲルまたはSDS-アガロースゲル電気泳動法を用いて行われていましたが、精製VWFを必要とすること、操作が煩雑であることなどから、より簡便な測定法が望まれていました。本検査はマウスモノクローナル抗体を用いて、迅速かつ高感度にADAMTS13活性の測定が可能です。さらに本測定法ではインヒビターの測定も可能となりました。

ADAMTS13活性およびインヒビターを測定することで、病態の鑑別ならびに治療方針決定に有用な情報を提供できると思われま

検査要項

検査項目名	ADAMTS13活性	ADAMTS13 インヒビター定性*1	ADAMTS13 インヒビター定量
コード	9950	9951	9952
検査方法	EIA法	Bethesda法	
検体量	クエン酸血漿 0.2mL	クエン酸血漿 0.4mL*2	クエン酸血漿 0.5mL
保存方法	凍結*3		
基準値	70～120%	陰性	0.5 BU/mL*4
所要日数	3～5日	4～6日	
定価	7,000円	12,000円*5	15,000円
実施料	未収載		
備考	*1：インヒビター定性ご依頼の場合は、必ず[9950]ADAMTS13活性も併せてご依頼下さい(定性単独でのご依頼はできません)。 *2：検体量はADAMTS13活性とインヒビター定性の必要検体量を合わせたものです。 *3：必ず血漿分離の上、ご提出下さい。 *4：BU(Bethesda Unit) *5：ADAMTS13活性とインヒビター定性を合わせた定価です。		

本検査は、日本医学臨床検査研究所にて実施します。

参考文献

Kato S, Matsumoto M, Matsuyama T, et al.: Transfusion 46 : 1444-1452, 2006
藤村 吉博 : 日本血栓止血学会誌 17 : 144-164, 2006